

平成27年度

事業報告書

(自) 平成27年 4月 1日

(至) 平成28年 3月31日

〒452-0962

愛知県清須市春日新町95番地

社会福祉法人西春日井福社会

理事長 花木和彦

平成27年度西春日井福祉会本部事業報告書

1 法人運営に関する会議の開催

- (1) 理事会 6回（役員の選任、施設長の選任、事業計画及び事業報告、予算及び決算報告、規則規程の改正、施設整備及び契約に関する事項）
- (2) 評議員会 5回（役員の選任、施設長の選任、事業計画及び事業報告、予算及び決算報告、規則規程の制改廃、施設整備及び契約に関する事項）
- (3) 指名審査委員会 4回（施設整備及び契約の仕様書、契約方法、業者選定に関する事項）
- (4) 施設長会議
 - ① 定例会 13回（月次状況確認、法人統一事項確認、事業運営における情報共有）
 - ② 検討会・臨時 14回（職員定着対策、時間管理、感染症対策、職員満足度調査結果等）
- (5) 法人の一元管理及び運営の適正に向けた会議の開催
 - ① 運営適正化委員会（各業務内容の適正化、職種別役割分担の明確化等）
 - ② 法人の会議・委員会（出納員会議、労務担当者会議、衛生委員会、給食業務検討委員会生活相談員会議、看護長会議、介護長会議）

2 職員の雇用状況

- (1) 職員総数 604名（正規354名、嘱託53名、パート197名）
- (2) 採用 68名（正規35名、嘱託4名、パート29名）
 - ① 募集活動（問い合わせ数244名、施設見学者101名、正規職員受験者39名）
 - ② 募集方法（学校234校、紹介所4箇所、就職フェア16回、ホームページ、インターネット求人等）
- (3) 退職 69名（正規31名、嘱託5名、パート33名）

3 人事異動

- (1) 昇任昇格等 25名（課長級1名、係長級等2名、主任等任命22名）
- (2) その他 42名（身分換16名、配置換18名、職種換等5名、育休復帰3名）

4 職員処遇の充実

- (1) 昇給 334名（正規287名、嘱託17名、パート30名）
- (2) 職員表彰 14名（永年勤続20年2名、10年12名）
- (3) 福利厚生 13種（リフレッシュ事業、自己啓発事業、健康増進に係る事業、職員給与積立事業、団体保険事業、職員親睦旅行等）

5 法人としての職員育成

- (1) 採用時研修 延18回161名（学卒者、一般採用者）
- (2) 一般職員研修 延16回427名（全体、職種別、救命講習等）
- (3) 階層別研修 延20回481名（チューター職員、リーダー職員、役職職員、管理職）
- (4) 県外宿泊研修 延8回29名（高齢者施設職員対象、障害者施設職員対象）

6 組織統治及び内部統制の充実

- (1) 理事長報告会の実施
 - ① 事業実績報告 4回（7日間）四半期毎の報告、事業及び決算報告
 - ② ヒアリング 2回（9日間）施設稼働率及び事業収入確保、事業計画及び収支予算
- (2) 監事による監査及び検査の実施
 - ① 現金出納監査 6回（偶数月）現金預金の変動及び残高、利用者預り金の高額取引確認
 - ② 定期監査 1回（3日間）固定資産管理状況、物品の受払手続きの確認
 - ③ 中間監査 1回（2日間）上期事業及び決算報告
 - ④ 決算監査 1回（2日間）事業報告及び決算報告

平成27年度特別養護老人ホーム五条の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 79.1名（前年度 78.4名）
- (2) 稼働率 98.9%（前年度 98.0%）
- (3) 平均介護度 3.81（前年度 3.70）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 86回（夏祭り、吹奏楽団演奏、家族交流会等）
- (2) 外出支援 31回（バスハイク、喫茶外出、花見外出等）
- (3) 食事関係 47回（バイキング、ゴールドデンランチ、行事食等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 35回 延べ人数150名
- (2) 内部研修 25回（腰痛予防、感染症予防、事故防止等）
- (3) 各種会議・委員会 109回（フロア会議、業務改善会議、終末期ケア検討部会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) サービス担当者会議では多くの家族参加を得ることができ、入所者・家族のニーズをくみ取ったケアプランを作成・説明し、有意義な意見交換ができました。また、看取り介護の充実として、緩和ケア病棟の見学や検討部会を新たに発足し、さらなる看取り介護について、職員の知識・意識の向上に努めました。
- (2) 入所者個々の身体状況を把握し、本人に合った機能訓練計画を作成し、訓練を実施しました。また、入所者の身体状況に合った低床ベッドの更新や介護用リフトの導入を行い、生活環境・労働環境の充実に努めました。
- (3) 入所者の日々の健康状態を観察し、健康管理に努めました。また、嘱託医より外来患者の傾向から地域で発生している感染症の状況報告をいただき、職員、面会者へ注意喚起を行うことで、感染予防に努めました。
- (4) 事業計画に基づいて、職員に必要な技術の習得をするために、積極的に研修へ参加しました。研修で得た技術や知識を各委員会・会議等で復命することで、職員の知識・意識の向上を図ることができました。
- (5) 入所者個々の栄養状態を把握したなかで、中・高リスク者に関し、体調変化や体重の増減を適宜確認し、希望に合った嗜好品・補助食品を活用して、計画立案を行いました。食べる楽しみを持っていただくための工夫とし、日頃の食事とは違った各地の郷土料理をバイキングで提供するなど、楽しく食事をしていただきました。
- (6) 夏祭りを始め、毎月開催している行事や地元の吹奏楽団の来訪など地域との連携を図りました。また、家族交流会を実施して、職員企画の家族参加できる催し物を行うなど、入所者との心の距離を保っていただくことができました。
- (7) 地域の関係機関と連携を深めることで、圏内の入所希望者の状況を把握して、空床日数が出ることなく対応でき、安定した稼働を継続することができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 馴染みのボランティアが見えることで、生活の中での楽しみの一つとなっており、地域に根差した取り組みができています。
- (2) 介護福祉士・社会福祉士等の実習生を始め、地元の小中学生から社会人まで、数多くの福祉職場体験を受け入れ、地域福祉教育に貢献することができました。
- (3) フェイスブックに外出行事やイベントの開催の様子を掲載することで、閲覧者に興味を引く内容で更新することができました。
- (4) 圏内の関係機関から、認知症の講師派遣の要請を受けて実施することで、地域福祉の担い手としての活動に努めました。

平成27年度老人短期入所事業五条の里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 18.6名（前年度 19.0名）
- (2) 稼働率 93.2%（前年度 95.0%）
- (3) 平均介護度 3.15（前年度 3.16）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 86回（夏祭り、吹奏楽団演奏、獅子舞等）
- (2) 食事関係 31回（バイキング、ゴールデンランチ、行事食等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 35回 延べ人数150名
- (2) 内部研修 25回（腰痛予防、感染症予防、事故防止等）
- (3) 各種会議・委員会 109回（フロア会議、業務改善会議、感染症予防委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 居宅介護支援事業所と連携を図り、利用者や家族のニーズをくみ取るとともに、利用中にも個々のニーズを確認し、サービス提供することで、継続した利用につなげることができました。
- (2) 居宅サービス計画書や家族のニーズに対応して、在宅生活が継続して営めるように、機能訓練の実施に努めました。
- (3) 日々の体調観察により、健康状態の異変に早く気が付き対応することで、症状の重篤化を未然に防ぐことができました。また、体調の急な悪化が認められた際にも、家族への連絡や受診など、適切な対応を速やかに図ることができました。
- (4) 事業計画に基づいて、職員に必要な技術の習得をするために、積極的に研修へ参加しました。研修で得た技術や知識を各委員会・会議等で復命することで、職員の知識・意識の向上を図ることができました。
- (5) 食べる楽しみを持っていただくための工夫とし、日頃の食事と違った各地の郷土料理をバイキングで提供するなど、楽しく食事をしていただきました。
- (6) 夏祭りを始め、毎月開催している行事や地元の吹奏楽団の来訪など地域との連携を図りました。また、家族交流会を実施して、職員企画の家族参加できる催し物を行うなど、入所者との心の距離を保っていただくことができました。
- (7) 認知症重度者や医療依存度の高い利用者について、介護・看護との調整を図り、できる範囲で継続的に利用していただくことができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 馴染みのボランティアが見えることで、生活の中での楽しみの一つとなっており、地域に根差した取り組みができています。
- (2) 介護福祉士・社会福祉士等の実習生を始め、地元の小中学生から社会人まで、数多くの福祉職場体験を受け入れ、地域福祉教育に貢献することができました。
- (3) フェイスブックに外出行事やイベントの開催の様子を掲載することで、閲覧者に興味を引く内容で更新することができました。
- (4) 地域関連機関からの要請を受け、必要に応じて迅速に対応することができました。緊急受入については短期入所が窓口となるケースが多いため、様々なケースに対応できるように、多職種の連携を図ることができました。

平成27年度老人デイサービスセンター五条の里事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 26.1名（前年度 26.7名）
 - (2) 稼働率 87.0%（前年度 88.9%）
 - (3) 平均介護度 2.36（前年度 2.32）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 131回（デイ夏祭り、デイ運動会、吹奏楽団演奏等）
 - (2) 食事関係 52回（バイキング、鉄板料理、日曜カフェ等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 18回 延べ人数22名
 - (2) 内部研修 18回（腰痛予防、感染症予防、事故防止等）
 - (3) 各種会議・委員会 94回（デイ会議、業務改善会議、感染症予防委員会等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 居宅介護支援事業所と連携を図り、利用者や家族のニーズをくみ取るとともに、利用中にも個々のニーズを確認して、サービス提供することで、継続した利用につなげることができました。
 - (2) 居宅サービス計画書に沿った内容で、機能訓練指導員の指導のもと、利用者個々に合った上下肢の機能訓練を実施して、在宅生活が継続して営めるように努めました。
 - (3) 運転業務に入る前に安全運転の啓発や、送迎車両の洗車・清掃を行うことで、安全な送迎に心がけ、無事故で運行することができました。
 - (4) 日々の体調観察により、健康状態の異変に早く気が付き対応することで、症状の重篤化を未然に防ぐことができました。また、体調の急な悪化が認められた際にも、家族への連絡や受診など、適切な対応を速やかに図ることができました。
 - (5) 事業計画に基づいて、職員に必要な技術の習得をするために、積極的に研修へ参加しました。研修で得た技術や知識を会議で復命することで、職員の知識・意識の向上を図ることができました。
 - (6) 食べる楽しみを持っていただくための工夫とし、普段の食事と違った各地の郷土料理をバイキングで提供するなど、楽しく食事をしていただきました。また、新たにパーティシエによるケーキの提供や日曜カフェの開催を行いました。
 - (7) 初めてのサービス利用として、お試しで利用していただき、雰囲気やサービス提供内容を理解していただくことで、多くの新規利用者の獲得ができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 行事披露のボランティアに多く活動していただきました。また、新規の活動ボランティアを獲得することもできました。
 - (2) 介護福祉士・社会福祉士等の実習生を始め、地元の小中学生から社会人まで、数多くの福祉職場体験を受け入れ、地域福祉教育に貢献することができました。
 - (3) フェイスブックに外出行事やイベントの開催の様子を掲載することで、閲覧者に興味を引く内容で更新することができました。
 - (4) 地域の関係機関との連携を密に行うことで、虐待、介護困難など新たな福祉需要に対応できるように努めました。

平成27年度特別養護老人ホームあいせの里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 77.2名（前年度 77.6名）
- (2) 稼働率 96.5%（前年度 97.0%）
- (3) 平均介護度 3.81（前年度 3.78）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 18回（夏祭り、運動会、ハロウィンパーティー等）
- (2) 外出支援 26回（お花見、名古屋港水族館、初詣等）
- (3) 食事関係 49回（流しそうめん、ビアガーデン、パティシエ実演会等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 49回 延べ人数75名
- (2) 内部研修 12回（感染症、腰痛予防、リスクマネジメント等）
- (3) 各種会議・委員会 190回（事故防止委員会、感染症対策委員会、ユニット会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者本人だけでなく、家族にも意向調査を行い、ケアプランへ反映させることで、より入所者本位の施設サービスの提供に努めることができました。
- (2) 四季を感じることもできるような外出行事の企画や、新しく運動会を行ったり、ハロウィンイベント等の施設内行事を実施し、入所者の生活の質の向上につなげることができました。
- (3) バイキングや行事食では、入所者の希望を積極的に募り、食事メニューに反映することで、食べることの楽しさを実感していただくことができ、毎回好評をいただきました。
- (4) 感染対策委員会を中心に、勉強会や外部講師を招いての研修を行い、全職員が感染症予防に係る知識を習得することで、施設内の感染症予防に努めることができました。
- (5) 外部研修に積極的に参加し、習得した知識・技能を現場へフィードバックすることで、施設全体の介護力の向上に努めることができました。
- (6) 災害時に迅速な避難誘導を行うことができるよう、火災、地震それぞれの災害を想定した避難訓練を行い、危機管理の体制を整えることができました。
- (7) 新規入所者を受け入れる際、各職種が連携し様々な職種の視点からアセスメント調査を行ったため、適切なサービス提供に努めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 今年度の活動した実績を踏まえて、次年度の福祉カフェの活動について、企画調整会議を立ち上げ検討することで、地域福祉の増進につながるよう努めることができました。
- (2) 夏祭りでは、職員、地域住民、各ボランティア団体が協力し、盛大に開催することで、施設と地域のつながりを強めることができました。
- (3) 介護の日では、前回開催時のアンケートで要望の強かった自宅でできる認知症介護というテーマを企画することで、地域の介護者に、より実践的な情報を提供することができました。
- (4) 福祉専門学生から近隣小学校の児童まで、幅広い世代から実習、職場体験を受け入れることにより、次世代の福祉人材育成に努めることができました。
- (5) 福祉会だよりやフェイスブックを通じて、あいせの里の日々の様子を公開することで、開かれた施設づくりに努めることができました。
- (6) ボランティア連絡会への参加を通して、ボランティアを募集する等、ボランティア獲得について、積極的な活動を行うことができました。

平成27年度あいせの里短期入所生活介護事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|--------|--------------|
| (1) 平均利用者数 | 20.5名 | （前年度 20.6名） |
| (2) 稼働率 | 102.6% | （前年度 102.9%） |
| (3) 平均介護度 | 2.69 | （前年度 2.62） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 18回 | （夏祭り、運動会、ハロウィンパーティー等） |
| (2) 食事関係 | 49回 | （流しそうめん、ビアガーデン、パティシエ実演会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 外部研修 | 49回 | 延べ人数75名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （感染症、腰痛予防、リスクマネジメント等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 190回 | （事故防止委員会、感染症対策委員会、ユニット会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 各種行事への参加や、桜祭など季節にちなんだ地域各所へ外出することにより、利用者の生活の質の向上に努めることができました。
- (2) 機能訓練を希望される方に対して、短期入所生活介護計画書に基づき、機能訓練指導員による歩行訓練や関節可動域訓練等の訓練を実施し、ADLの維持に努めました。
- (3) バイキングや行事食では、利用者の希望を積極的に募り、食事メニューに反映することで、食べることの楽しさを実感していただくことができ、毎回好評をいただきました。
- (4) 利用者に体調不良、感染症の症状が見られた時には、各職種が連携し、迅速に対処することで施設内での感染症予防に努めることができました。
- (5) ヒヤリハット報告を積極的に行い、事故の発生防止に努めることができました。発生した事故に関しては、速やかに周知を図り、再発防止に努めることができました。
- (6) 毎月、各居宅介護支援事業所へリーフレットを用いた営業活動を行い、新規利用者の獲得に努めることができました。また、入院により発生した空床をできる限り活用することで稼働率の向上に努めることができました。
- (7) 災害時に迅速な避難誘導を行うことができるよう、火災、地震それぞれの災害を想定した避難訓練を行い、危機管理の体制を整えることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 夏祭りでは、職員、地域住民、各ボランティア団体が協力し、盛大に開催することで、施設と地域のつながりを強めることができました。
- (2) 介護の日では、前回開催時のアンケートで要望の強かった、自宅でできる認知症介護というテーマで企画することで、地域の介護者に、より実践的な情報を提供することができました。
- (3) 福祉専門学生から近隣小学校の児童まで、幅広い世代で実習、職場体験を受け入れることにより、次世代の福祉人材育成に努めることができました。
- (4) 福祉会だよりやフェイスブックを通じて、あいせの里の日々の様子を公開することで、開かれた施設づくりに努めることができました。
- (5) 毎月、各居宅介護支援事業所、公共機関へ行事内容などを掲載したリーフレットを配布することで、地域に向けてあいせの里の取り組みを発信することができました。

平成27年度老人デイサービスセンターあいせの里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 26.6名 | （前年度 26.4名） |
| (2) 稼働率 | 88.6% | （前年度 88.1%） |
| (3) 平均介護度 | 2.36 | （前年度 2.27） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 行事関係 | 93回 | （運動会、バレンタインイベント、デイサービス夏祭り等） |
| (2) 外出支援 | 16回 | （桜・紫陽花花見、歴史民俗資料館、初詣等） |
| (3) 食事関係 | 63回 | （バイキング、季節の弁当、パティシエ実演会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 24回 | 延べ人数24名 |
| (2) 内部研修 | 28回 | （施設内研修、人事考課研修、主任・副主任研修） |
| (3) 各種会議・委員会 | 89回 | （デイサービス会議、介護員会議、運営連絡会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 個別レクリエーションでは、裁縫や習字、絵手紙などを実施して、個々の利用者が意欲的に好みの活動に参加することができました。また、回想法の充実を図るため、利用者の幼少時代をテーマとしたイベントを開催し、認知症の進行予防を図ることができました。
- (2) 定期的に園芸療法を行い、収穫した野菜はおやつ作りや昼食時に提供し、利用者に喫食していただくことができました。巨大壁画においては、全国紙の月刊デイに当所の「マッチ売りの少女」が初めて入賞し、利用者及び職員の意欲増進に繋げることができました。
- (3) ヒヤリハットを活用することにより、未然に事故を防ぐよう努めました。また、事故が発生した際は、職員間の情報共有を行い、事故防止ための観察力強化を図りました。
- (4) 機能訓練スペースを設けて、フロア内に点在していた機能訓練機器を1箇所に配置することにより、機能訓練を効率的に実施することができました。また、リラクゼーションや健康増進を図ることを目的として遠赤外線足浴を導入することができました。
- (5) 新たに季節の弁当、実演調理、プロのパティシエ実演会を開催することにより、食事の楽しみを最大限に引き出したサービスを提供することができました。
- (6) デイ会議では、利用者個々のケアについて意見交換を行うとともに、その時期のテーマに沿った内部研修や勉強会を開催し、職員の知識や技術の向上を図ることができました。
- (7) デイサービス夏祭りや食事行事等のイベントに居宅介護支援事業所を招待し、館内の雰囲気を感じていただくことができました。また、イベントを通じて利用者の情報交換や施設の空き情報を提供することにより、稼働率の向上を図ることができました。
- (8) 災害時に迅速な避難誘導を行うことができるよう、火災、地震それぞれの災害を想定しての避難訓練を行い、危機管理の体制を整えることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 夏祭りでは、職員、地域住民、各ボランティア団体がそれぞれ役割を持って協力し盛大に開催することで、施設と地域とのつながりに努めることができました。
- (2) ボランティアの受け入れ積極的に行うために、施設で活動の場を積極的に提供することにより、各種ボランティア団体との交流を深めることができました。
- (3) 福祉専門学生から近隣小学校の児童まで幅広い世代の実習を受け入れ、教育機関との交流を図ることにより、地域の福祉教育に努めることができました。
- (4) 日々の様子をブログで発信するとともに、新たに様々なサービス提供内容や福祉カフェめだかの宣伝などを紹介したパンフレットを作成して、広報活動の強化を図りました。
- (5) 地域ケア研修会、通所事業所連絡会に定期的に参加し、事例検討やグループワーク、講義を通して、行政や他事業所と情報交換を図ることができました。

平成27年度ケアハウスあいせの里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 27.9名（前年度 28.9名）
- (2) 稼働率 93.0%（前年度 96.2%）
- (3) 要介護者数 6名（前年度 5名）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 123回（誕生日会、日帰り旅行、年越会等）
- (2) 外出支援 76回（食事外出、買い物、季節外出等）
- (3) 食事関係 39回（バイキング、モーニング、敬老御祝御膳等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 2回 延べ人数 2名
- (2) 内部研修 3回（感染症、身体拘束、食中毒）
- (3) 各種会議・委員会 23回（運営連絡会議、事故・身体委員会、感染対策委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) サービス担当者会議に出席して入所者の現状を伝え、必要な在宅福祉サービスを提案することで、入所者の自立した日常生活の維持・継続に繋げることができました。また、介護認定調査の立会いでは、日頃の入所者の様子を伝え、適切な介護認定に繋げるように努めました。
- (2) 歯科医師会による歯科健診、特定健診への参加を促し、疾病の早期発見に繋がりました。また、定期的なバイタル測定の実施、日常の見守り、インフルエンザ予防接種の推奨、空間除菌薬品の購入等により入所者の体調の把握、感染症予防に努めることができました。
- (3) 歯科衛生士による、入所者自身が口腔清掃するためのケアの指導や、口腔機能が向上できる体操を学び、介護予防に努めました。また、北名古屋市の専門家による健康教室を開催し、入所者の健康的な生活や認知症予防に繋げることができました。
- (4) 入所者の希望に応じた食事外出、買い物外出、四季折々の外出、日帰り旅行等を実施し、生活の潤いや楽しさの感じていただくことができました。
- (5) 入所者同士が共通の趣味を通し活動することができる書道、絵手紙、茶道等のクラブ活動を実施し、入所者の趣味や特技を尊重しながら、生活意欲の向上に努めました。また、傾聴ボランティアの受け入れによる入所者の疎外感の軽減などにより、入所者の心身の安定を図ることができました。
- (6) 季節を感じられるよう旬の食材を使用したバイキングや日常とは違う雰囲気味わっていただくモーニングを実施し、食事の楽しさを感じていただきました。
- (7) 災害時の家具転倒防止のための居室内点検、夜間帯の地震・火災を想定した避難訓練を実施し、非常時の安全確保に努めました。また、全居室を対象にくん煙剤による害虫駆除を実施し、入所者の快適で衛生的な生活環境の確保に努めました。
- (8) 施設見学者、居宅介護支援事業所、入所問合せに対し施設のサービス内容、入所者の生活の様子、入所待機状況を懇切丁寧に説明し、入所申込者の確保に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 施設主催の夏祭りを開催し、多くの地域住民の方に参加していただき、地域との関係づくりに役立つことができました。また、介護の日の開催では、地域の方々に認知症介護の関心を持ってもらえるよう、自宅でできる認知症介護をテーマとした取組みができました。
- (2) 地域主催の合瀬川桜まつり、はるひ美術館福祉観覧デーに参加し、地域との接点を築くことにより、入所者と地域住民の地域交流に努めました。
- (3) フェイスブック、福祉だよりにて入所者の日常生活やクラブ活動様子などの内容を掲載し、家族や地域の方に施設での活動を理解していただくよう努めました。

平成27年度特別養護老人ホームペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員100名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 96.9名（前年度 96.2名）
- (2) 稼働率 96.9%（前年度 96.2%）
- (3) 平均介護度 3.88（前年度 3.83）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 36回（ペガサス春日夏祭り、保育園児来訪、家族交流会等）
- (2) 外出関係 31回（ショッピング、花見外出、相撲部屋見学等）
- (3) 食事関係 75回（バイキング、モーニング、流しそうめん等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 48回 延べ人数94名
- (2) 内部研修 22回（感染予防、腰痛予防、緊急時対応等）
- (3) 各種会議・委員会 223回（調整会議、チーム会議、行事委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 担当者会議では、日常生活の様子をお伝えしたり、ご家族からの要望を聞き取り、施設サービス計画書に反映させました。また、個々の生活リズムに合わせた起床介助の実施、個別処遇として排泄の見直しによる紙パンツから布パンツへの移行を行い、生活の質の向上につなげることができました。
- (2) 家族交流会、忘年会、夏祭り等の行事の開催を家族にお知らせして、入所者と一緒に参加していただくことができました。
- (3) 移乗用リフトやスライディングボード等の福祉用具を活用することにより、移乗介助の際の入所者の安心と安全を確保するとともに、職員の負担軽減を図ることができました。
- (4) 感染症予防の施設内研修の実施、嘔吐物処理方法の確認を行い、予防対策、発生時の対応方法を徹底しました。口腔ケアの充実にも努め、機能維持を図ることができました。
- (5) バイキング、モーニング、喫茶ランチ、秋にはさんま祭り、冬には鍋ランチを行い、いつもと違う場所で、季節を味わうメニューを提供することにより、普段は食事をあまり摂られない方が、しっかりと召し上がっていただくことができました。
- (6) 外部研修では、接遇や認知症理解等の各種研修や、喀痰吸引やユニットリーダー等の専門研修に、多くの職員が参加することができました。施設内研修では実技も取り入れ分かりやすく伝え、知識と技術の向上に努めました。
- (7) 春には夜間の風水害発生を想定した訓練、秋には地元消防団の協力のもと、地震後の火災を想定した訓練を実施し、利用者も職員も緊張感を持って訓練に臨むことができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 毎週開催の福祉カフェで介護相談を行ったほか、施設職員が認知症サポーター養成講座で講師を行うなど、地域福祉の推進に貢献することができました。地下水を利用したせせらぎを整備し、自然との関わりを持った憩いの場を提供することができました。
- (2) 地元地区主催の防災訓練では、敷地内を会場として提供するとともに、災害時に地域の方も利用可能な災害対策ライフライン設備について活用方法を説明しました。
- (3) 夏祭りでは、多くの地域住民や学生にボランティアとして参加していただき、介護の日では、地域の方々への介護の啓発活動を行うことができました。
- (4) 介護福祉士、社会福祉士、教員初任者研修、地域の中学校等、実習生を多数受け入れ、それぞれの目標や計画に沿った実習ができ、福祉教育に貢献することができました。
- (5) 行事や食事イベントの様子を中心にフェイスブックを更新しました。多くの職種、職員が作成に関わり、数多くの記事を掲載し地域に発信することができました。

平成27年度老人短期入所事業ペガサス春日事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 8.8名 | （前年度 11.0名） |
| (2) 稼働率 | 87.7% | （前年度109.6%） |
| (3) 平均介護度 | 3.12 | （前年度 2.76） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 36回 | （ペガサス春日夏祭り、保育園児来訪、なごみの丘等） |
| (2) 食事関係 | 75回 | （バイキング、モーニング、流しそうめん等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|---------------------|
| (1) 外部研修 | 48回 | 延べ人数94名 |
| (2) 内部研修 | 22回 | （感染予防、腰痛予防、緊急時対応等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 223回 | （調整会議、チーム会議、行事委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 担当者会議に出席し、利用者の施設での生活の様子を伝えるとともに、在宅での様子を細かく聞きとる事ができました。また、各居宅介護支援事業所とも十分な連携を図り、円滑な利用につなげることができました。
- (2) 夏祭りや花火大会、焼きいもなど、季節を感じていただけるような行事では、たくさん笑顔を見ることができました。また、デイショート交流会を実施し、創作活動で共同作品をつくり、デイ利用者とコミュニケーションを図ることができました。
- (3) 利用開始時や利用中に体調の確認を行い、発熱等の体調不良者には家族に受診を促し、早期回復を図って、再利用につなげることができました。
- (4) バイキング、モーニング、喫茶ランチ、秋にはさんま祭り、冬には鍋ランチを行い、いつもと違う場所で、季節を味わうメニューを提供することにより、普段は食事をあまり摂られない方が、しっかりと召し上がっていただくことができました。
- (5) 外部研修では、接遇や認知症理解等の各種研修や、喀痰吸引やユニットリーダー等の専門研修に、多くの職員が参加することができました。施設内研修では実技も取り入れ分かりやすく伝え、知識と技術の向上に努めました。
- (6) 春には夜間の風水害発生を想定した訓練、秋には地元消防団の協力のもと、地震後の火災を想定した訓練を実施し、利用者も職員も緊張感を持って訓練に臨むことができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 夏祭りでは、多くの地域住民や学生にボランティアとして参加していただき、介護の日では、地域の方々への介護の啓発活動を行うことができました。
- (2) 介護福祉士、社会福祉士、教員初任者研修、地域の中学校等、実習生を多数受け入れ、それぞれの目標や計画に沿った実習ができ、福祉教育に貢献することができました。
- (3) 介護者の緊急入院や独居高齢者の体調不良等の場合には、居宅介護支援事業所の介護支援専門員と連携して随時受け入れを行うことができました。
- (4) 行事や食事イベントの様子を中心にフェイスブックを更新しました。多くの職種、職員が作成に関わり、数多くの記事を掲載し地域に発信することができました。

平成27年度老人デイサービスセンターペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 27.3名（前年度 27.9名）
 - (2) 稼働率 90.9%（前年度 93.1%）
 - (3) 平均介護度 2.41（前年度 2.27）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 155回（運動会と作品展、保育園児来訪、デイ夏祭り等）
 - (2) 食事関係 31回（バイキング、パーティシエ、寿司の日等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 28回 延べ人数30名
 - (2) 内部研修 5回（感染予防、緊急時対応、嘔吐物処理方法）
 - (3) 各種会議・委員会 73回（調整会議、デイサービス会議、行事委員会等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新規利用や定期更新によるサービス担当者会議では、デイサービス利用中に職員が感じた個別の検討課題を正しくお伝えするとともに、利用者及び家族からの要望を適切に聞き取ることができました。聞き取った内容は通所介護計画書に反映させ、個々のニーズに沿ったサービス提供に努めることができました。
 - (2) 感謝祭や運動会、デイ夏祭りといった行事活動を行うことができました。運動会では、利用者と職員とが競技を通して一体となり、充実した時間を過ごすことができました。
 - (3) 看護師による様々な機能訓練や器械を使ったマッサージを行い、心身の健康維持、残存機能の維持向上を図ることができました。また、機能訓練ルームを積極的に利用される方が増えることにより、利用者同士あるいは職員とのコミュニケーションを深める場となりました。
 - (4) 利用者の健康維持及び感染予防を図るため、口腔ケアや各種体操、来所時の手洗いやうがい徹底を行いました。また、今年度からは居宅介護支援事業所にも季節毎に発行の健康だよりを配布し、健康促進や感染予防についての啓発活動を行うことができました。
 - (5) 認知症介護実践者研修に参加し、認知症の人に対する対応、問題行動に対する理解を職員に伝えることにより、全員が共通認識を持つことができ、認知症の利用者が安心してイキイキ過ごすことができました。
 - (6) 秋に南海トラフ地震を想定した訓練を地元消防団の皆さんと実施することができ、職員も緊張感を持って訓練に臨むことができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 踊りや紙芝居といった催し物の披露や、利用者が参加できる指体操などのボランティアを積極的に受け入れることができました。
 - (2) 介護福祉士、社会福祉士、教員初任者研修、地域の中学生等、実習生を多数受け入れ、それぞれの目標や計画に沿った実習を行うことができ、地域の福祉教育に貢献することができました。
 - (3) 居宅介護支援事業所や、他の事業所との情報連携を密にし、早期受診及び利用再開につなげることができました。
 - (4) 月刊パンフレットやフェイスブックを活用して、様々な行事情報や施設全体の取り組みについて積極的に情報発信を行うことができました。また、デイ夏祭りでは、たくさんの家族やケアマネに参加していただき、取り組みと利用者の様子を見ていただくことができました。

平成27年度ケアハウスペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 28.3名 | （前年度 29.0名） |
| (2) 稼働率 | 94.2% | （前年度 96.6%） |
| (3) 要介護者 | 10名 | （前年度 8名） |

2 地域交流等行事

- | | | |
|-----------|------|------------------------|
| (1) 施設内行事 | 27回 | （回想法、ペガサス春日夏祭り、運動会等） |
| (2) 外出支援等 | 134回 | （ショッピング、昼食外出、ビール工場見学等） |
| (3) 食事関係 | 38回 | （モーニング、バイキング、流しそうめん等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 17回 | 延べ人数17名 |
| (2) 内部研修 | 21回 | （施設内研修、施設内医療勉強会等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 69回 | （調整会議、ケアハウス会議、行事委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者が自立し、充実した生活を送れるよう、定期的な外出支援や入所者の要望を取り入れた昼食外出を実施することができました。季節を感じられる外出では、藤見物やビール工場等に外出することができました。施設内行事では、回想法の一環として駄菓子屋を開催したり、クリスマス会、桃の節句等の季節を感じられる行事を企画し、多くの利用者を楽しんでいただくことができました。
- (2) 入所者と家族との繋がりを深められる支援として、絵手紙を実施することができました。また、入所者個々の能力を活かすことができるクラブ活動を行うことができました。毎日のラジオ体操をはじめ、レクリエーションの時間を活用して介護予防に繋がる支援を行うことができました。
- (3) 季節を感じられる食事の提供では、毎月の昼食バイキングにて、旬な食材を取り入れたメニューやテーブルに季節の花を飾る等の工夫をしたり、モーニングや行事食を実施し、食事の楽しさや大切さを感じていただくことができました。
- (4) 清須市で実施される健康診断への参加や毎月行う健康相談・歯科相談では、入所者の健康状態の把握や日頃の悩み等を相談できる時間となり、健康管理に対する意識向上に繋げることができました。
- (5) 生活の場である施設内の消毒を年間を通して実施することができました。入所者への感染症予防の啓発活動について、時期に応じた呼びかけを行うことができました。
- (6) 年2回の避難訓練を実施することができました。うち1回については、地元消防団に協力していただき実施することができました。実際に非常階段を使用しての避難を体験する良い機会となり、災害に対する意識の高揚に繋げることができました。
- (7) 職員のスキルアップとして、外部や施設内で行われた研修に積極的に参加することができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 毎月第4火曜日の地域サロンの開催や清須市主催の健康教室では、食堂を開放し、入所者と地域住民との良き交流の場とすることができました。毎週土曜日に開催している福祉カフェでは、地域に根ざした施設となるよう努めることができました。
- (2) 回想法や夏祭り等の施設行事においては、入所者の地域社会との交流の場として活用できるよう積極的な参加を促すことができました。
- (3) 家族や地域へ発信するために、フェイスブックの更新を積極的に実施することができ、効果的な広報活動を実施することができました。

平成27年度グループホームペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員9名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 8.9名（前年度 8.9名）
 - (2) 稼働率 99.1%（前年度 98.3%）
 - (3) 平均介護度 1.86（前年度 1.99）
- 2 地域交流等行事
 - (1) 施設内行事 27回（夏祭り、クリスマス会、獅子舞等）
 - (2) 外出支援等 31回（いちご狩り、初詣、梅花見等）
 - (3) 食事関係 12回（ランチバイキング、スイーツバイキング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 21回 延べ人数22名
 - (2) 内部研修 5回（感染症研修、緊急対応研修）
 - (3) 各種会議・委員会 63回（調整会議、衛生委員会、感染症予防委員会等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者個々の能力に応じたケアプランを作成し、毎日の生活の中で職員と一緒に炊事、掃除等の作業を行っていただき、自分らしい日常の生活を感じていただくことができました。また、プランの見直しを家族との話し合いで、行うことができました。
 - (2) 入所者の希望を取り入れ、桜、紫陽花等の花見外出を中心に、季節を感じていただける支援を行うことができました。また、地域の盆踊りに参加することにより、地域とのつながりを持つことができました。
 - (3) 入所者個々の理解力に合わせ、職員と一緒に居室内の清掃・整理整頓等を行い生活環境の向上に努めることができました。
 - (4) 施設外研修・施設内勉強会に参加し、職員の資質向上に努めることができました。
 - (5) 入所者の毎日の血圧・体温を測定するなど、日常の様子を把握していたことで、受診時の家族・医師との連携につながり安定した体調管理を行うことができました。
 - (6) 地震による火災を想定して、入所者を安全に避難誘導できるよう地元消防団と連携した訓練を実施しました。またグループホーム単独での避難訓練では、強い地震が起きた場合の行動を想定した実践的な避難を行い、入所者、職員共に意識向上につなげることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 夏祭りでは、ボランティアの協力を得て、入所者や家族、地域の方々に楽しんでいただくことができました。介護の日のつどいでは、市役所の協力を得て、入所者・家族や地域の方々への介護の啓発活動を行うことができました。
 - (2) 運営推進会議を開催し、地域や家族の方々に事業活動を伝えるとともに、率直な意見を聞くことができました。また、日常の昼食や行事食スイーツバイキングを試食体験していただき、入所者の生活の様子を知っていただくことができました。
 - (3) 民生委員を対象にした介護講座や、介護の日のつどいでの認知症サポーター養成講座の講師を行い、地域福祉の増進に貢献することができました。
 - (4) 福祉会だよりやフェイスブックを活用して積極的に活動状況を発信し、広報活動を行うことができました。また、入所者家族に対して、事業所発信の「かわら版」を毎月発行し、事業活動の紹介および各入所者の近況報告を行うことができました。

平成27年度特別養護老人ホーム清洲の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.1名 | （前年度 78.9名） |
| (2) 稼働率 | 97.6% | （前年度 97.7%） |
| (3) 平均介護度 | 3.98 | （前年度 3.93） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|------|---------------------|
| (1) 行事関係 | 90回 | （夏祭り、家族交流会、もちつき等） |
| (2) 外出関係 | 54回 | （ショッピング、喫茶外出、食事外出等） |
| (3) 食事関係 | 104回 | （モーニング、バイキング、居酒屋等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|----------------------|
| (1) 外部研修 | 33回 | 延べ人数56名 |
| (2) 内部研修 | 23回 | （認知症ケア、感染症予防、腰痛予防等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 168回 | （調整会議、リーダー会議、処遇委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者のその人らしい生活を実現するため、要望・嗜好・能力に応じたケアプランを作成しました。アセスメント作成の方法については情報共有委員会にて検討し、情報の共有と個別支援の充実に努めました。
- (2) モーニングやバイキング、ランチ会、居酒屋といった定例行事では、入所者に楽しみを持って参加していただくことができました。また、各ユニットでは入所者の希望を受け、寿司やピザを楽しみました。流しそうめんや焼いも等、季節感のある食事もできました。
- (3) 地域とのつながりを大切にするため、地元のお祭りに参加したり、近隣喫茶店へ外出する等しました。
- (4) 家族交流会では、入所者及び職員との共同作業を通じて交流を深めることができました。家族の行事参加も定期的に促し、入所者と一緒に外出や外食に出かけることができました。清洲の里だよりは毎月発行し、施設の取り組み内容を広報することができました。
- (5) 入所者の安心・安全な生活を実現するため、感染予防対策を徹底したことにより、集団的な感染症の発生を抑制することができました。事故防止についてはヒヤリハットの段階で原因と対策を検討することにより、重篤な事故の発生を予防できました。防災についての啓発を定期的に行い、防災訓練では本番を想定した訓練を実施できました。
- (6) 入所者の健康管理を目的として、多職種が共同して利用者個々の状態観察を行い、摂食・嚥下の機能維持や、褥瘡予防に努めました。
- (7) ユニットケアの概念や活動を学ぶため、施設内研修を開催した他、他施設を見学する等しました。活動発表会を通して、職員のモチベーションアップに努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 日々の生活の中で、ボランティアを活用することができました。新たに取り組みました福祉カフェでは、介護をされている方々に気軽に相談や情報交換ができる憩いの場として、ボランティアにお手伝いをいただき実施し、地域の方々との交流と情報発信に努めました。
- (2) 介護福祉士をはじめとする各種専門職の実習を受け入れた他、地元教育機関が行う実習等、福祉教育に協力することができました。
- (3) 地域との連携を十分に図り、清掃活動、防災訓練、市民公開講座でのブース出展等、様々な活動に取り組みました。
- (4) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、施設の取り組み内容について、地域に向けての情報発信に努めました。

平成27年度清洲の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 19.8名 | （前年度 19.0名） |
| (2) 稼働率 | 99.0% | （前年度 95.1%） |
| (3) 平均介護度 | 3.06 | （前年度 3.08） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|------|--------------------|
| (1) 行事関係 | 90回 | （夏祭り、家族交流会、もちつき等） |
| (2) 食事関係 | 104回 | （モーニング、バイキング、居酒屋等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|----------------------|
| (1) 外部研修 | 33回 | 延べ人数56名 |
| (2) 内部研修 | 23回 | （認知症ケア、感染症予防、腰痛予防等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 168回 | （調整会議、リーダー会議、処遇委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 居宅介護支援事業所が行うサービス担当者会議には積極的に出席して、ニーズや現状の課題の再確認に努めました。施設での生活の様子を踏まえて、栄養管理や機能訓練の提案を行うことより、在宅生活を維持できるように支援しました。
- (2) モーニングやバイキング、ランチ会、居酒屋といった定例行事では、利用者に楽しみを持って参加していただくことができました。パティシエの先生にご協力いただき、デザート作りを行った際には、利用者にとっても喜んでいただけました。
- (3) 利用者の機能維持を目的として、日頃のレクリエーションにおいては、ラジオ体操、口腔体操、軽い運動を伴うゲーム等を行いました。歩行訓練を目的として実施した散歩や外出支援においては、日の光にあたり、いつもより少し多い距離を移動する等、健康管理にとって意義のある取組を行うことができました。
- (4) 利用者の安心・安全な生活を実現するため、感染予防対策を徹底したことにより、集団的な感染症の発生を抑制することができました。事故防止についてはヒヤリハットの段階で原因と対策を検討することにより、重篤な事故の発生を予防できました。防災についての啓発を定期的に行い、防災訓練では本番を想定した訓練を実施できました。
- (5) ユニットケアの概念や活動を学ぶため、施設内研修を開催した他、他施設を見学する等しました。活動発表会を通して、職員のモチベーションアップに努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 日々の生活の中で、ボランティアを活用することができました。新たに取り組みました福祉カフェでは、介護をされている方々に気軽に相談や情報交換ができる憩いの場として、ボランティアにお手伝いをいただき実施し、地域の方々との交流と情報発信に努めました。
- (2) 介護福祉士をはじめとする各種専門職の実習を受け入れた他、地元教育機関が行う実習等、福祉教育に協力することができました。
- (3) 地域との連携を十分に図り、清掃活動、防災訓練、市民公開講座でのブース出展等、様々な活動に取り組みました。
- (4) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、事業所の取り組み内容について、地域に向けての情報発信に努めました。

平成27年度特別養護老人ホーム平安の里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員96名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 94.0名（前年度 94.5名）
 - (2) 稼働率 97.9%（前年度 98.4%）
 - (3) 平均介護度 3.73（前年度 3.62）
- 2 地域交流等行事
 - (1) 行事関係 134回（ユニット内行事、夏祭り、餅つき等）
 - (2) 外出支援 94回（お千代保稲荷、ナゴヤドーム、性海寺等）
 - (3) 食事関係 94回（出張回転寿司、ビアガーデン、流しそうめん等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 37回 延べ人数54名
 - (2) 内部研修 14回（身体拘束防止、感染予防、事故防止等）
 - (3) 各種会議・委員会 136回（ユニット会議、リーダー会議、運営連絡会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者の要望を聞き、外食、参拝、ナゴヤドーム観戦等の外出支援を実施したり、ユニット内の生活空間を改善して居心地の良い暮らしとなるよう支援しました。
 - (2) 華道クラブ、書道クラブ、絵手紙のレクリエーションに加え、出張回転寿司、出張うなぎ屋、ビアガーデン等の食事行事を実施して入所者に楽しんでいただくことができました。また、季節の外出として桜、紫陽花等の花見、美術館鑑賞、新川やると祭見物、初詣等へ出かけ、季節を感じていただくことができました。
 - (3) 家族交流会をユニット毎で開催し、各ユニットでバーベキュー、ケーキバイキング等を実施して家族と日々の生活の様子等を話しながらコミュニケーションを図り、入所者、家族、職員との信頼関係を築くことができました。
 - (4) カンファレンスを開催して本人、家族の意向を聞きながら、ケアマネジャー、介護、看護、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員が参加して情報共有を図り、各職種が協力して入所者の生活を支援しました。
 - (5) 毎月、施設内研修を開催して職員の介護技術向上を図りました。また、外部研修では専門的な研修以外に接遇マナー、防災減災、コミュニケーション能力等の研修に参加して職員の知識向上となりました。
 - (6) 屋上庭園では入所者と一緒に四季折々の花や野菜を栽培、収穫して、食事やおやつに提供し喜びを実感していただきました。また、天候の良い日には散歩や日光浴を行い、心身の向上を図りました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) フェイスブックを活用して施設内行事、外出行事、日々の生活の様子を発信し家族、地域の方々に対して広報活動を実施しました。
 - (2) 介護福祉士の実習、地域の中学校の職場体験、管理栄養士や作業療法士の実習などの受け入れを行い、福祉教育機関の一環を担うことができました。また、清須市社会福祉協議会の依頼を受けて地域へ出向き、高齢者介護の啓発に努めました。
 - (3) 清須市の530運動や東海豪雨10周年事業の清掃活動に地域住民と一緒に参加しました。また、清須市内の保育園の園児訪問、夏祭り、介護の日、餅つき大会を実施し、地域との交流を図りました。
 - (4) 年間を通じて喫茶、傾聴、バイキング、茶道、書道、絵手紙、生け花等のボランティア活動に参加していただき、継続して活動していただくことができました。

平成27年度平安の里短期入所生活介護事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 28.8名（前年度 28.1名）
- (2) 稼働率 95.8%（前年度 93.8%）
- (3) 平均介護度 2.79（前年度 2.65）

2 地域交流等行事

- (1) 行事関係 134回（ユニット内行事、夏祭り、餅つき等）
- (3) 食事関係 94回（出張回転寿司、ビアガーデン、流しそうめん等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 37回 延べ人数54名
- (2) 内部研修 14回（身体拘束防止、感染予防、事故防止等）
- (3) 各種会議・委員会 136回（ユニット会議、リーダー会議、運営連絡会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 担当者会議に参加して利用者や家族の要望、在宅生活の様子を知ることで職員間で連携を図り、快適に過ごしていただくことができました。
- (2) レクリエーションとしてカラオケ、書道、絵手紙、寺子屋、運動会等を実施し、食事行事としてバイキング、モーニングをはじめ、おやつ作り、昼食作り、出張回転寿司を実施して楽しみを持って利用していただくことができました。
- (3) 機能訓練についてはペダル漕ぎ運動、上下肢運動を実施して筋力の低下防止に努めました。
- (4) 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ空き情報を連絡して、利用の確保に努めました。
- (5) 担当者会議での情報をユニット会議で発信し、介護職員やその他の職種で情報の共有を図り安心、安全に利用していただくことができました。
- (6) 毎月、施設内研修を開催して職員の介護技術向上を図りました。また、外部研修では専門的な研修以外に接遇マナー、防災減災、コミュニケーション能力等の研修に参加して職員の知識向上となりました。
- (7) 屋上庭園では利用者と一緒に四季折々の花や野菜を栽培、収穫して、食事やおやつに提供し喜びを実感していただきました。また、天候の良い日には散歩や日光浴を行い、心身の向上を図りました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) フェイスブックを活用して施設内行事、外出行事、日々の生活の様子を発信し家族、地域の方々に対して広報活動を実施しました。
- (2) 介護福祉士の実習、地域の中学校の職場体験、管理栄養士や作業療法士の実習などの受け入れを行い、福祉教育機関の一環を担うことができました。また、清須市社会福祉協議会の依頼を受けて地域へ出向き、高齢者介護の啓発に努めました。
- (3) 清須市の530運動や東海豪雨10周年事業の清掃活動に地域住民と一緒に参加しました。また、清須市内の保育園の園児訪問、夏祭り、介護の日、餅つき大会を実施し、地域との交流を図りました。
- (4) 年間を通じて喫茶、傾聴、バイキング、茶道、書道、絵手紙、生け花等のボランティア活動に参加していただき、継続して活動していただくことができました。

平成27年度老人デイサービスセンター平安の里事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 26.4名（前年度 24.4名）
 - (2) 稼働率 88.1%（前年度 81.1%）
 - (3) 平均介護度 1.99（前年度 1.82）
- 2 地域交流等行事
 - (1) 行事関係 47回（津軽三味線、保育園児訪問、夏祭り等）
 - (2) 食事関係 30回（ランチバイキング、おやつバイキング等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 13回 延べ人数15名
 - (2) 内部研修 7回（身体拘束、腰痛予防、緊急時の対応等）
 - (3) 各種会議・委員会 60回（デイサービス会議、運営連絡会議、給食委員会等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 各職員が毎日、情報共有を図ることでサービスの統一、向上に努め、利用者に安心安全に利用していただくことができました。
 - (2) 研修に参加することで新しい知識、刺激を受け、得た知識を速やかに現場に報告し、他の職員の仕事に対しモチベーションが上がる等、意識向上ができました。
 - (3) 季節の花、食物等を苗から収穫まで行ったことで利用者が、積極的に園庭での機能訓練に参加することができました。また、身体的に器具運動が難しい利用者に対しては、ベッド上や椅子に座った状態での運動を身体状況に合わせて、プログラムを検討、実施することができました。
 - (4) 行事の作品準備や季節に合せた作品を作成する際に、利用者の意見を取り入れることで利用者自身の作成意欲が高まりました。そして、完成した作品をフロアに飾り、作品を行事に使用することで達成感と次回への意欲向上に繋がりました。
 - (5) ヒヤリハットを各職員が必ず記入することで、事故防止の意識を持って業務にあたることができました。また、定期的にヒヤリハット検討会、事故検討会を開催して、二度と同じ事故が起こらないよう対応を検討し、事故防止策を共有することができました。
 - (6) 月に2回、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を訪問し、体験利用、新規受け入れを積極的に行いました。
 - (7) 送迎時の危険箇所の回避や通行時間の制限区域等の下見を事前に行い、安全運転の徹底に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 定期的にフェイスブックを更新して日々の利用中の様子を発信しました。また、市役所や地域の喫茶店にパンフレット等を置かせていただき、幅広く広報活動を展開することができました。
 - (2) 定期的に保育園児の訪問を受け入れ、また、中学校の職場体験では当初、施設に対して暗い印象を持った生徒たちが利用者と職員が明るく接して過ごしている姿を見て、施設に対する印象が変わり、福祉に興味を持っていただきことができました。
 - (3) 地域ケア会議や通所連絡会の研修に参加して他事業所の職員との交流を深め、また、地域の民生委員の役割や活動を知る機会となりました。
 - (4) 新規で来ていただいていたレクリエーション等のボランティアグループも、継続して連絡を取り合うことで定期的に訪問していただけるようになりました。また、担当者と事前打ち合わせを重ねることでボランティアとの連携が生まれ、信頼関係を構築しました。

平成27年度西春日井福祉会居宅介護支援事業所事業報告書

事業運営

1 ケアプラン作成状況

- | | | |
|-----------|---------|---------------|
| (1) 作成件数 | 2, 934件 | (前年度 2, 821件) |
| 予防委託件数 | 535件 | (前年度 316件) |
| (月平均) | 289件 | (前年度 216件) |
| (2) 平均介護度 | 2.07 | (前年度 2.15) |

2 相談受付状況

- | | | |
|---------|------|--------------------------|
| (1) 全体 | 131件 | (前年度 124件) |
| (2) 地区別 | | |
| 清須市 | 82件 | (前年度 82件) |
| 北名古屋市 | 39件 | (前年度 36件) |
| 豊山町 | 10件 | (前年度 2件)、その他 0件 (前年度 4件) |

3 新規契約・契約終了件数

- | | | |
|------------|------|------------|
| (1) 新規契約件数 | 118件 | (前年度 115件) |
| (2) 契約終了件数 | 79件 | (前年度 77件) |

4 認定調査委託請求件数

231件	(前年度 261件)
------	------------

5 職員研修

- | | | |
|----------|-----|---------------|
| (1) 外部研修 | 34回 | 延べ人数68名 |
| (2) 内部研修 | 10回 | (月例会議、法人研修会等) |
| (3) 各種会議 | 52回 | (月例会議) |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者の自己決定を尊重したケアプランを作成し、在宅において自立した日常生活を送れるよう支援するとともに、利用者の尊厳保持と自立に努めました。
- (2) 管内市町の福祉施策や地域ボランティア活動状況等の情報整理を行い、利用者支援に活用しました。
- (3) 事業所のセルフチェック及び介護支援専門員のサービス自己評価を前期・後期に行い、業務内容の点検をし、利用者支援に活用しました。
- (4) 業務遂行に必要な知識や技術の向上のため、研修計画に基づき、外部研修への派遣や職場内研修を実施し、職員の資質向上に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 行政機関とは、地域ケア会議に参加するとともに、介護保険認定調査や介護予防プランを受託し、サービス事業者とは毎月の訪問、サービス担当者会議等を通じて連携し、相互の理解向上に努めました。
- (2) 法人主催の介護の日のイベントや法人各特別養護老人ホームの夏祭りで介護保険相談を行いました。

平成27年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（施設入所）事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員50名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 48.1名（前年度 47.6名）
 - (2) 稼働率 96.1%（前年度 95.3%）
 - (3) 平均障害支援区分 4.93（前年度 4.80）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 154回（杜の集い、第8回杜の記念祭、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 365回（合同外出、ユニット別外出・喫茶等）
 - (3) 食事関係 90回（行事食、調理実習、ご当地メニュー等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 24回 延べ人数40名
 - (2) 内部研修 27回（新人研修、全体研修、支援研修、嘱託研修等）
 - (3) 各種会議・委員会 338回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 利用者の人権を尊重し、安心・安全なサービスを提供するため人権委員会を設置しました。委員会では、人権擁護に関するテーマを決めて検討し、掲示物を作成する等、全職員に周知、啓発を行いました。また、呼称や虐待について、各部署の会議で議題に取り上げて協議し、職員の人権に対する意識の向上を図りました。
 - (2) 合同外出事前会議を開き、参加者の要望や注意点を出発前に把握することで、一人ひとりに合わせた一泊旅行や外出を行うことができました。また、ボランティアによる人形劇や北名古屋体操等、それぞれのニーズに沿った余暇の充実に努めました。
 - (3) 安心安全な環境づくりのため、防災・環境委員会を設置し、毎月環境整備を行うとともに、設備の点検や補修を実施しました。また、空間清浄器の購入により快適で安心できる環境になりました。
 - (4) 利用者の健康維持増進のため健康委員会を設置し、利用者の健康状態の把握や職員の健康に対する意識の向上を図りました。しかし、インフルエンザや胃腸風邪に多くの利用者・職員が罹患し、感染拡大を防ぐことができませんでした。再度、日常的な清掃や消毒の仕方を見直すとともに、職員の感染症に対する意識の向上を図ることが必要です。
 - (5) ご当地メニューや季節メニューを取り入れ、楽しみのある献立を工夫しました。また、パティシエによるケーキの実演講習への参加などをとおして、利用者職員共に食に対する興味関心が広がりました。
 - (6) 利用者一人ひとりに応じた支援ができる実践力のある職員を育成するために、新人及び経験・階層別の内部研修を実施しました。施設職員が講師を務めることで、相互の能力を伸ばしました。また、インシデント・プロセス法と行動観察法の研修を継続して実施することで、自身の支援を見直すとともに支援技術の向上を図ることができました。外部研修に計画的に職員を派遣し、実際の支援の場に生かせるよう努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 施設に対する地域の理解と支援に感謝し、地域との交流を深めるため「第8回杜の記念祭」を開催し、多くの地域の関係者に参加していただくことができました。
 - (2) 地域との繋がりを深め社会参加を進めるため、地域のコンビニエンスストアやスーパーマーケット等での買い物、喫茶店や美容院の利用等、積極的に出かける機会を持ちました。その他、地域行事やイベント等、地域の人と関わりを深める活動に参加しました。
 - (3) 地域の施設理解を進めるために、施設広報誌杜のたよりやユニット通信、フェイスブック等を様々な視点で作成し、積極的に発信しました。杜のたよりは関係者に配布し、ユニット通信は毎月家族に配布しました。

平成27年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（短期入所）事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 6.9名 | （前年度 7.9名） |
| (2) 稼働率 | 68.6% | （前年度 79.0%） |
| (3) 平均障害支援区分 | 3.88 | （前年度 3.90） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|------|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 154回 | （杜の集い、第8回杜の記念祭、クリスマス会等） |
| (2) 外出支援 | 365回 | （合同外出、ユニット別外出・喫茶等） |
| (3) 食事関係 | 90回 | （行事食、調理実習、ご当地メニュー等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|-------------------------|
| (1) 外部研修 | 24回 | 延べ人数40名 |
| (2) 内部研修 | 27回 | （新人研修、全体研修、支援研修、嘱託研修等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 338回 | （運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 家庭を離れる不安を軽減するために、できるだけ同じ居室や同じ席を用意し、一人ひとりに合った生活環境の提供に努めました。新規利用者の契約や緊急入所に対応することで一時稼働率は上がりましたが、長期利用者の退所や流感による利用制限の影響で、昨年の稼働率を下回りました。
- (2) 利用者や家族の希望に応じて、入所中の日中活動の事業所を自由に選択することで、安心して生活を送ることができるようになってきました。また、ユニットでの生活に楽しみを持たせるため、喫茶こもれびの利用や施設内での余暇の充実を図りました。
- (3) 相談支援センターと連携し、サービスを必要としている地域の人に情報を届けることで、新規の利用者が増えました。また、短期入所中の利用者が他事業所を利用することで、地域関係者との繋がりも深まりました。引き続き、連携しながら短期入所の利用を働きかけていきます。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 家族の病気や本人の情緒不安定等での緊急利用には、他利用者と調整をし、優先して受入れ、家族や本人の負担や不安を軽減することに努めました。土日の利用が多く、利用調整が難しい場合があったため、圏域外の利用希望は平日を勧めています。
- (2) 懸案ケースは、相談支援センターや市町福祉課、社会福祉協議会等の関係機関と連携し、個別支援会議（サービス担当者会議）を開催するなど検討を行い、安心して地域で生活できるよう努めました。家族が高齢化しているケースも増加し、ますます関係機関との連携が必要となっています。

平成27年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（生活介護）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員68名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 66.6名（前年度 68.5名）
 - (2) 稼働率 98.0%（前年度 100.7%）
 - (3) 平均障害支援区分 4.83（前年度 4.70）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 154回（杜の集い、第8回杜の記念祭、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 365回（合同外出、ユニット別外出・活動材料購入、喫茶等）
 - (3) 食事関係 90回（行事食、調理実習、ご当地メニュー等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 24回 延べ人数40名
 - (2) 内部研修 27回（新人研修、全体研修、支援研修、嘱託研修等）
 - (3) 各種会議・委員会 338回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新規利用や利用回数増の希望に応じるため、調整会議等を開催し、効率的な利用調整に努めました。しかし、入院や流感のため、稼働目標を達成することができませんでした。
 - (2) 個別支援の充実を図るため、より利用者の要望が反映されるように個別支援計画の様式を変更しました。また、サービス等利用計画に基づいて相談部門や他事業所との担当者会議に出席し、利用者の理解や個別支援の充実を図りました。
 - (3) 今年度、企業から製品にスタンプを押印する新しい受託作業を開始しました。DVDを使って体操を実施し体幹を鍛える機会を設けました。また、利用者の関心のある調理実習を定期的実施することができました。
 - (4) 社会参加を進めるため、近隣への外出や買い物に積極的に出かけました。活動意欲を高めるため、利用者自身が活動材料の購入に出かける機会を設けました。また、障害の重いグループは、庄内緑地公園や清須城などへ出かけました。
 - (5) 利用者一人ひとりに応じた支援ができる実践力のある職員を育成するために、新人及び経験・階層別の内部研修を実施しました。施設職員が講師を務めることで、相互の能力を伸ばしました。また、インシデント・プロセス法と行動観察法の研修を継続して実施することで、自身の支援を見直すとともに支援技術の向上を図ることができました。外部研修に計画的に職員を派遣し、実際の支援の場に生かせるよう努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域社会の障害理解を深めるため、夏休みに中学生の職場体験学習やボランティア活動、合唱隊による慰問を受け入れました。福祉体験教室は、地域の小学生が参加し、施設見学や野菜の収穫、利用者との作品づくりを行いました。また、障害者週間の啓発事業を実施し、福祉映画の上映会や施設見学、作品展示販売等を行い、地域の方が障害を理解する機会となりました。
 - (2) ボランティアの増加を図るため、ボランティア委員会を開催し、ボランティア募集のポスターやちらしを関係機関に配布しました。定期的な演芸ボランティアの来所や園芸や手芸など日常的な活動に個人ボランティアが多く参加されました。また、ボランティア交流会を開催し、感謝の気持ちを伝えるとともにボランティアの方から意見を聞く機会となりました。
 - (3) 障害への理解を深めるとともに交流の場として、毎月、西春日井地域福祉の店やみずとぴあ庄内朝市へ出店し、地域の方々の好評を得ることができました。青い鳥医療福祉センター夏祭りや豊山町健康福祉フェスティバル、コロニー祭、アザレアコンサート、福祉映画祭、北名古屋市商工祭、北名古屋市ふれあいフェスティバルに出店しました。

平成27年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（地域活動支援センター）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 0.2名（前年度 0.4名）
 - (2) 稼働率 1.1%（前年度 2.1%）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 利用者の希望に応じ、買い物や入浴支援、園芸活動など、本人の満足できる活動を提供しました。
 - (2) 相談支援センターと連携し、離職者等の支援を行う予定でしたが、今年度は対象者がありませんでした。
 - (3) 土曜日の利用者の希望が外出支援中心であったため、買い物や外出先での散歩を計画し、実施しました。
 - (4) 通所が途絶えがちな利用者に対して、市町や他事業者、相談支援センターと連携し、定期的に利用できるように支援を行いましたが、安定した利用とはなりませんでした。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 生活介護を利用できない人を対象に、本人にニーズに沿った活動の場を提供し、生活に潤いと楽しみを持っていただくことができました。

平成27年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（日中一時支援）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員5名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 3.5名（前年度 3.1名）
 - (2) 稼働率 69.7%（前年度 61.5%）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 一時的な見守りだけでなく、外出支援や創作活動等の余暇活動を行い、生活意欲の向上を図りました。
 - (2) 長期休暇の春休み、夏休み、冬休み期間中、ひきこもりがちな在宅障害児の日中活動の場所を日中一時支援事業で提供し、地域生活の充実を図りました。
 - (3) 地域の相談支援事業所との連携により、新規の利用を増やすことができました。また、家族の入院や家族負担の軽減のため、短期入所利用者に日中一時支援を合わせて提供したため、昨年度より利用を増やすことができました。市福祉課と連携し、強度行動障害のある他施設利用者を日中一時支援事業で受け入れ、家族の負担軽減を図ることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 平日他事業所を利用している人を土曜日に一時的に受け入れ、家族の介護負担の軽減を図ることができました。

平成27年度相談支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

(1) ケアプラン	7件	（前年度	11件）
(2) 障害程度区分認定調査	35件	（前年度	5件）
(3) 電話相談	467件	（前年度	489件）
(4) 来所相談	354件	（前年度	296件）
(5) 訪問相談	366件	（前年度	322件）
(6) 計画相談	189件	（前年度	140件）
総計	1,418件	（前年度	1,263件）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意思及び人格を尊重し、常に利用者や家族の立場に立って、公正中立な相談支援を行うよう努め、充実した生活が送られるように支援しました。市町福祉課と連携し、サービス等利用計画を作成し、モニタリング等で検証しました。市町委託の基本相談として日常的な困りごとの相談を受け、見守りをし、地域での生活の安定につなげることができました。
- (2) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局として、運営会議（7回）や交流会（4回）を開催し、地域関係者の連携を深めました。尾張中部福祉圏域障害者支援協議会相談支援部会に参加し、情報交換のほかに介護保険・訪問看護・計画相談の進め方等、テーマを決めて勉強会を行い、他事業所との連携を深めるとともに、相談支援専門員の力量向上を図りました。また、障害者支援を考えよう連続勉強会を開催し、話題提供者がテーマに沿った話をした後に、少人数のグループに分かれて意見交換を行いました。地域関係者の障害の理解を図るとともに、連携を深める場となり、圏域内関係者との連携の強化につながりました。
- (3) 愛知県圏域相談支援体制整備事業を受託し、地域アドバイザーとして、関係機関の会議等で助言し、地域自立支援事業の活性化を図りました。
- (4) 地域の親グループ活動に参加し、助言を行い、親グループの活動の活性化を図りました。また、親グループ間の交流を図るために親の交流会を関係者との打ち合わせを重ねて開催しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域交流の場として交流ホールや多目的室を、障害児者親グループや地域住民の活動に利用していただき、交流の場となりました。
- (2) 障害者情報を発信するため、情報紙の杜の風だよりと支援協議会だよりの地域の風・絆を毎月発行し、地域関係者に配布しました。地域の状況や新しい情報が得られたと好評でした。
- (3) 西春日井地域福祉の店や喫茶ギャラリーこもれびで展示販売するだけでなく、情報紙を置いたり、ボランティア募集のポスターを掲示するなど、情報を発信しました。

平成27年度訪問介護支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

○居宅介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- | | | | |
|-----------|-----------|------|----------|
| (1) 利用者数 | 173名 | （前年度 | 157名） |
| (2) 延利用時間 | 1,005.0時間 | （前年度 | 977.5時間） |

○行動援護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- | | | | |
|-----------|---------|------|----------|
| (1) 利用者数 | 79名 | （前年度 | 57名） |
| (2) 延利用時間 | 531.0時間 | （前年度 | 388.5時間） |

○重度訪問介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- | | | | |
|-----------|---------|------|----------|
| (1) 利用者数 | 27名 | （前年度 | 29名） |
| (2) 延利用時間 | 471.5時間 | （前年度 | 601.5時間） |

○移動支援事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- | | | | |
|-----------|-----------|------|-----------|
| (1) 利用者数 | 690名 | （前年度 | 576名） |
| (2) 延利用時間 | 6,239.0時間 | （前年度 | 6,095.時間） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意向を聴取し、了解を得ながら、ニーズに即した計画を作成しました。
- (2) 男性ヘルパーを採用し、同性介助希望者にサービスを提供することができました。しかし、男性利用者が多いため、さらに確保を必要としています。
行動援護に従事できる資格を保持するヘルパーが少ないため、講習会の受講を計画的に進めていきます。
- (3) 利用者や家族から、サービスについて直接聞き取り調査を行い、満足度を把握し、より良い支援となるよう努め、利用者の希望に沿う支援ができました。
- (4) ヘルパー会議や地域部門会議でケース検討を行い、ヘルパーのスキルアップを図りました。また、障害者支援を考えよう連続勉強会に登録ヘルパーも参加し、障害の理解を深めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域の理解を深めるため、情報紙で訪問介護支援センターの制度や具体的な支援内容についての情報を発信しました。